

平成30年度 金沢大学建設工事等入札監視委員会 議事概要

開催日及び場所	平成30年11月22日(木) 本部棟第3会議室	
委員	委員長	佐藤 考一(金沢工業大学教授)
	委員	沖野 陽平(弁護士)
	委員	柴 義公(公認会計士・税理士)
審議対象期間	平成30年1月1日 ~ 平成30年8月31日	
抽出案件(合計)	3 件	(備考)
工事(小計)	2 件	金沢大学建設工事等入札監視委員会規程に基づき、互選により佐藤委員が委員長に選出された。 また、議長代行として、柴委員が指名された。 さらに、公共工事案件抽出の委任について、佐藤委員が指名された。 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
一般競争入札 (政府調達に関する協定対象工事)	0 件	
一般競争入札 (上記工事を除く)	2 件	
工事希望型競争入札	0 件	
通常指名競争入札	0 件	
随意契約	0 件	
随意契約 (予定価格省略)	0 件	
設計・コンサルティング業務(小計)	1 件	
公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式(拡大)	0 件	
標準型プロポーザル方式	0 件	
一般競争入札	0 件	
随意契約	1 件	
委員からの意見・質問, それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

※委員からの意見・質問, それに対する回答等はできるだけ詳細に記入すること。

意見・質問	回答
<p>1. 金沢大学及び北陸先端科学技術大学院大学 において発注した建設工事について(報告) (金沢大学より説明)</p> <p>・特になし。</p> <p>2. 金沢大学及び北陸先端科学技術大学院大学 において発注した設計・コンサルティング業務につ いて(報告) (金沢大学より説明)</p> <p>・特になし。</p> <p>3. 審議対象建設工事及び設計・コンサルティング 業務の抽出結果について (佐藤委員長より抽出結果の説明)</p> <p>・特になし。</p> <p>4. 建設工事及び設計・コンサルティング業務に おける抽出案件の審議 (1)一般競争入札方式 【北陸先端大屋内運動場新営その他工事】</p> <p>・本件は、総合評価落札方式のうち、「実績評価型」 を適用しているが、特段何か提案を求めるとい うことではなく、所定の条件をチェックし、配 点をしたということによいか。また、総合評 価落札方式のタイプの設定は、一般的な区分 なのか、あるいは北陸先端大独自の設定か。</p> <p>・大規模木造建築で準耐火構造であるが、技 術的な提案はせずに実績だけで評価できるの か。</p> <p>・公共工事は基本的には分離発注であり、検 討すべきだったのではないか。</p>	<p>文部科学省が定める総合評価落札方式の実 施方針に基づいて決定しているものであり、 概算金額から簡易型又は実績評価型が該当 するが、技術的な工夫の余地が少ない一般 的な工事であると判断したため、総合評価 落札方式のタイプとして実績評価型を選 択したものである。また、評価項目・評 価基準等についても実施方針に基づいた ものである。</p> <p>設計の段階で「燃えしろ設計」とすると決 めていたため、あらためて提案を求め ることはせずに、実績評価型とした。</p> <p>電気はほぼ照明であり、空調はアリーナ 部分が無いなど、建築に対し、設備の割 合が極めて少</p>

<p>・包含発注とするか、分離発注とするかの判断として、何か学内で規定や基準はあるのか。</p> <p>・分離発注の主旨として、業者の受注機会が増加されるものであるため、特段支障がないのであれば、分離発注をできるだけ取り入れるべきかと考える。</p> <p>・施工体制評価点集計表について、配点の具体的な基準はあるのか。また、ある程度客観的になるよう、配点を細分化するほうが入札の適正において外部にも理解を得やすくなるのではないか。</p> <p>(2) 一般競争入札方式 【金沢大学(角間)北部テニスコート改修工事(再公告)】</p> <p>・総合評価加算点集計表によると、応札業者の評価基準は、配点合計の半分も満たしていない。評価基準を見直してもよかったのではないか。</p> <p>・特殊施設ではないように思うが、応札業者が少なかったのはどういう理由が考えられるか。</p> <p>・発注時期が年度末に遅れたのはなぜか。</p> <p>・いずれにしても応札1者のみであった実態を受け、今後は発注時期の改善策を講じてもらいたい。</p> <p>(3) 随意契約(当初は簡易公募型プロポーザル方式(拡大)) 【金沢大学附属病院病棟無菌治療室改修設備設計業務】</p> <p>・当初、簡易公募型プロポーザル方式により業者に技術提案書の提出を求めたものの、貴学の求める</p>	<p>なかったことから、包含発注としたほうが安価になると判断したためである。</p> <p>特に定めているものはなく、都度判断している。</p> <p>通常はなるべく分離するようにしている。今後の参考とさせていただきたい。</p> <p>総合評価落札方式の実施方針を基本に、施工体制確認型の評価項目・評価基準等により配点したものである。</p> <p>主な理由として、評価項目「工事成績」について、成績評価対象外の団体の実績のみであったため、加点が少なかったものである。</p> <p>テニスコートはグラウンドと一体で整備するケースが多く、テニスコート単体で、さらに元請として改修を請け負っているところが少なかったことが考えられる。</p> <p>補正予算として、学内措置されたものであったためである。</p> <p>今後は適切に対応する。</p> <p>病院の新設の段階で病棟等に付随する工事実績はあるが、今回は「無菌治療室」の改修に限定</p>
---	--

<p>基準に達しなかった経緯がある。東海・近畿エリアを含めていたにも関わらず、応札業者が1社のみであったのはどういう理由が考えられるか。</p> <p>・首都圏などは実績がある業者がもっとあるのではないか。地域を限定した主旨は何か。</p> <p>・公告はどのような方法で行っているか。</p> <p>・この工事自体は大学病院ではあるが、可能な限り小規模な病院の実績経験に範囲を緩和してもよかったのではないか。今後も改修案件は増加すると思われる。実力のある業者に入札してもらえよう、条件設定の工夫を今後していただきたい。</p> <p>5. 審議対象建設工事等に関する点検</p> <p>(1) 一般競争入札方式 【金沢大学(角間)北部テニスコート改修工事(再公告)】 ・特になし。</p> <p>(2) 一般競争入札方式 【金沢大学(平和町)給水設備等警報監視盤設備改修工事】 ・特になし。</p> <p>(3) 一般競争入札方式 【北陸先端大情報科学系講義棟等空調設備改修工事】 ・特になし。</p> <p>(4) 随意契約 【北陸先端大実験廃水処理施設改修工事】</p>	<p>したものであり、施工実績が少なかった。さらに600床以上の規模要件であったことから応札業者が少なかったものである。広範囲に亘る大掛かりな工事であり、求めるレベルが高かったことも考えられる。</p> <p>本案件に限らず、関東地区からの関心が少ない傾向が見受けられるため、関東地区を除いたものである。</p> <p>北陸地区のみならず、東海地区にも多くの設計業者が存在するが、実際に応募はなかった。</p> <p>学内掲示、文部科学省の文教施設工事調達情報及び建設業界新聞への掲載である。競争参加資格の登録業者であれば、日頃から情報収集しているはずである。</p> <p>今後は適切に対応する。</p>
---	---

<p>・金額が高額であるが、他の業者への一般競争入札は検討しなかったのか。</p> <p>(5) 随意契約 【北陸先端大情報科学系研究棟Ⅲ他昇降機改修工事】 ・エレベーターを新規で導入することは検討しなかったのか。</p> <p>(6) 一般競争入札方式 【北陸先端大(辰口)ライフライン再生(講義棟等空調設備)設計業務】 ・広範囲の改修設計にも関わらず、なぜ年度をまたぐ計画を立てたのか。</p> <p>(7) 随意契約 【金沢大学附属病院病棟無菌治療室改修設備設計業務】 ・特になし。</p>	<p>一般競争入札方式の検討を行ったものの、実験排水処理の流れを制御している部分は他の業者が作業を行うことは難しい。また、他の業者が部分改修を行った後に、流出事故等が発生した場合の責任分界点が曖昧になるため、元施工業者と随意契約を行ったものである。</p> <p>改修であれば、1箇所あたり1週間ほどの工期で済むが、全てを取り替える場合は1.5ヵ月程度のエレベーター停止が伴い、教育・研究に大きな影響を及ぼす。</p> <p>また、全てを取り替える場合は、既存機器の廃棄処理を伴う高額な処理費用が発生するなど、工事費が高額となる。</p> <p>本件の施設整備事業については、平成30年度の施設整備費補助金を財源としたものであり、平成30年度内に工事を完成させるには、設計業務を自己財源で平成29年度内に発注する必要があるため、平成30年2月の発注となり、結果、設計業務の完了が年度をまたぐこととなったものである。</p>
--	---